



風俗傳茶夜談前編卷之十一

態藝門上之下第十一

東都

門一節
號130
卷3

多羅福山人

戲撰



十

却掃編ハ皇甫松碎郷日月とついで酒令の事
りせりやまて 骰子令旗譜令内撃令抛打令せん
のめりもくめんやるがらのりふいまごさしりるざり
りるあぐ優伶家の人りさげのま侍るを打令せ
之系酒令ついでとありやまてをせりるを
兼り碎ふくえと讀むるは酒令のまをりゆきと



唐のよきの風俗はたなり〜るなりと碎郷日
月よき〜優伶家のよけり〜むりあき〜りあき
ま治郎俳優のよき〜むりあき〜りあき
風雅席上のよき〜むりあき〜りあき
のよき〜むりあき〜りあき
今又晩唐のいかり〜むりあき〜りあき
今のもりあき〜むりあき〜りあき
膺とつぐと虎膺と〜むりあき〜りあき
松根とまぐらと松根と〜むりあき〜りあき

鴟とつて虎膺と下ま〜むりあき〜りあき
めし四子鈎戟と〜むりあき〜りあき
戟とハ申びの〜むりあき〜りあき
めし五に潜虬ハ玉柱より〜むりあき〜りあき
無名指と〜むりあき〜りあき
一寸と奇兵と〜むりあき〜りあき
一の腕と〜むりあき〜りあき
つと〜むりあき〜りあき
乃何と〜むりあき〜りあき

風俗のしづむのやうやくやしまでいふじとび
て三瓦兩舎サンワフソヤンソネのめとびはおれりもくんげと河まをい
ぢのちとてはたがさだしくりる清朝シヤウチヤウの河まをい
ぢんがつてあまこくまひろまはるさそと劇ゲキかんま
てのんどもしまでのりめもさうのめて河まをい
ぢまばましまりめがていりまおよび何ナニかあててくぢん
のさうを單一箇ダンイツコ兩箇リヤンコ三那サンナ四箇シコ五采ウサイ六麼ロクマ七采シサイ八麼ハツマ
九箇キウコ都来トライ或いハ一様手イツヤンチヤウをんと舌シタ乃まらめちくら
そらわんまがつて

【土芥】

職系シヨクケイ鈔シヤウは藏人クワンジンどころのへいさうハ公卿クウシヤウ第一の人はおんまて
えは補ホせもるまの頭カウハ四位シイの殿上人テンジヤウおんまらまら
おて辨ベンぐんクンのさよ一人迎衛エンエイ司シ乃ノかま一人乃ノあ
まらくの時位次カトはよらまらくの侍臣シヤウジの上ウヘに
ちりまらまら破ハくくを誤アヤまら公卿クウシヤウ乃ノ
人ヒトまらまら延喜エンキのやまら例レイは左大臣サウヂヤウちりまら
くんまらまら時トキハくえらまら一の上イツノウヘ乃ノ皆此卿セキシヤウのまら
まらまらまらまら藏人クワンジンどころのへいさう
まらまらまら天下テンカの権ケンのまらまら申マウ地チ乃ノまらまら

づの上よくおききしむる人の身よりの上
よりのあんとて蔵人政とひりかきしむる
諸府諸国のつとむるしむるを稱してかきしむる
こま又一府のちやうぐんを府中才一の座よひく
くわの人をいふ又く名づる事をも江次第の上
徳常陸上野の三大守をくハ親王を遣は任じむハ
女めくちの府の吏務しむるもゆるやうのめを
ちやうぐんをいふしむるのちやうぐんをいふ
ちやうぐんの人と同一にせむる女めなる人なりしむ

又しむるのちやうぐんをいふしむる源氏物語の
巻は女めなる人としてかきしむるの吏務
しむるやうにせむるしむる百察訓
要もとも女めのしむるしむるかきしむるしむる
のめをいふしむる諸府諸国のかきしむる訓くんを
上下の上の字の義しむるしむる風俗のちやう
ぐんをいふしむるしむる例一のちやうぐん
あるかきしむるしむるしむるあきしむるしむる
語は孔子吳の容ぶをいふしむるしむる禹群神

くまいたかの山よるをいぢりよのむひ一吋吳の客
同めていつもの守と神とや孔子又こそく
あつて山川のまいた天下を記綱とあるのやして
その守ある人各づけてこそを神といふれとある
あんなるをこそが執諸府諸国のけうさをかこむ
刊一あるも魯語のせんんの神の字よよりて乃
るといひぬきとのむきといふや孔夫子の御せん
バのらう世のむきほうさのよるもところとむきといふ
いと一れかとも同をさぬや

三才

蘇子古史いひ一秦の惠王張儀とて楚の懐
王とつざいせ関よりきてこれとてむきもり嬰兒を
あひやりしむごとくけう一は昭王又こそとつざいお
てかんやうのまよこまとておき楚國よるあるに
ひいよのまよ一していおな楚國のちうをさかして
こそとてとていひ一より楚のいまひいつおなせとて
て秦のゆえにあらはれぬかき無道とて人
まじりぬ秦をいんが楚人のみとておなよていせ
しぬよ父老のこといざして楚ハ三才といふ

るる^ん秦とぬらぼんし天下みざるよおふんで
秦とほろほろとのこもるして楚人^てなりん
為^る秦の碑^をく^て道^を往^るは三戸^と之^も秦と
ほろびし^の語ハ楚^の南公^とありあるおん^のやの云
た^るに漢書^の藝文志^に南公^{十二}人^{あり}なり家^{あり}
ありして六國^のの寸^{あり}なりと括^地志^に濁^漳水
ハ^いび^のの^か昔^公亭^を有^すこの^か三^戸峽^をて
三^戸津^となり^と南^公ハ^も三^戸津^となり^と陰^陽と^んト
廢^兵と^る人^をん^バ秦^のめ^りづ^とも^う解^るび^楚の

三^戸の^地より^もさ^うなり^となり^と西^の
楚^の霸王^項藉^もして三^戸津^となり^と秦^の大^將
章^邯や^がつて秦^つか^ぬら^びき^んハ^何也^ん
南^公ガ^云し^る史^記の^註ハ^韋昭^也
を^引て三^戸ハ^楚の^三大^姓昭^屈景^三家^となり^と
あ^やし^いゆ^地の^名ハ^三戸^となり^と耳^ハあ^らて
ま^ある^も左^傳も^しも^此地^のり^でん^バか^らい
ハ^いし^たら^し地^名も^昔の^もい^ま東^都
風^俗の^いし^たら^し地^名も^通る^所の^十軒^店也

かろかんまの六軒とんぶいさてん三戸のいさくらがひ
ろはぐまといふ地名や

三州

温公通鑑は唐の武宗會昌元年雄武軍節度使張
仲武兵をこしして盧龍牙將張絳をうらして時軍
使吳仲舒をねりて表を奉じて京師より
をよけをこしして李徳容をうらしていま雄武
のんといふくまうつやといふあはれは仲舒
をててえといひは百のほりよ土團五百人をありん
たると柳三省といふ註は土團といふ土人と團結し

ていふものとせらるるるやうとをぬき解きてこれを
談はる通鑑よりせらる土團ハ明律の土人のあぐ
いして土着する百姓をいふをいふとが國の風俗
野武士といふものと唐の世にありやといふも
りゆつらんとて武士とも名づらるべきやいま
又東都やまののちさうり柳首んぞんの土團子
といふ唐のけうりといふかといふやうに
五百や六百といふやといふあはれは
ちんといふといふ中よめあはれは

がうてツ魚のうらうら古文尚書論語とほてらまを
孔氏より一武帝より一孔安国より一
ては我いけの五十八人といふ一といふの尚書
大傳と稱するものえらうをみ兼ふ破れてえ
談じらよおらよ世の人のねらうらうらよい
回ドきもがうも何んせんぞ漢の孔安国のごと
ハ尚書隸古のてんざつたてんよひのいせれ名い
うに膾炙しめるるやま晋書孔愉が傳よ愉が
三子孔安国字ハ安国くん會稽内史領軍將軍あり

安帝の隆安のころに西人といひて東海王の師
とらう一尚書右僕射とて義熙四年
一とらうが左光祿大夫とて此の官
街とらうの顯ぜんも貴族の漢の孔安国
とらうといひてめわらうといひて
画工の探出とて風俗のめいざんとて
とらう一と世よめいひて名をりるが魏書
李孝貞が傳よ李順が弟脩基が子探出とらう
との官高平太守とてたといふ又いらくも探出

とよ名をいじり一人はしんせしとてしるす
之の聘使とて國の探出が画とてつとめつるなり
れ出とてびるとかきしる名もおしんこら
りてびるいふ毎字義をさうと用ひる名もや
いとんとんばあもえむまじくよめなりぬ金岡が
まの巨勢の二字をんとらるもんよんを
まてとて陽相のちひる人々とやむびとせよよく
も陰かすのかく地といつりまて巨勢の探出なり
男女の陰とちあめいよつまゝなるもやまじし

十六

宿遊記の書とて川とて臨摹硬黄響扇とて
四ツのりありける臨と紙とてのりまてかきて大
小濃淡のちいせおとろまてとてなを南のり
摹とていひき紙とて虫のりかひとてかき
せり多んちんまてとてかきとてなをな
せり硬黄とて紙とてのりかき火のりかき
黄蠟とていひきとてなをりかきとて毫厘と
んちのり響扇とて紙とて虫のりかきとて
けき窓牖のりかきとてなをりかきとて

人よふ時々人々とのちなるなりが多びたごのせ
かめりふいめいふらちりて礼義せんといふ
とるものこそちあるもかあきとるもかおほんせり
よるものこそいりて大夫さぬいまいも
はたしむの台かまらで地まらるのちりけあびど
きる男おのこらむしくもあきくよひくよひくも
例れいくく一に礼法とんむくくもあきあき
容齋随筆よいまの人本ほん銭せんといひて利入りいりとんり
しる俗語よことと放債はうさいといふれ或いこれと生せい

三十一

放はなも名づけあうたものゆるかきんぐおの漢書
谷永こくまが傳でんよ切きる人のためために債ちゆうとおせば利りとあう
謝しゃれりあゆるよいりり顔師古げんしこの註しゆよとる
阿あまびよのあきりあきりあきりあきりあきり
とて他人たにんといひてことよかたうて主ちゆう放はなといひて
ことよたえよ利りとくといひてもの利りといひて
とられ後世こうせい放財はうさいの字義じぎのらんきりやうしきも
う解げあてことと誤ごむらよ宋そうの洪邁こうまいといひてらんめ
先生せんせいなり放錢はうせんのり解げして漢書かんしゆをりぬるいふと

感傷氣閉てツクとむしむるをいふはさうりていふも

しむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

ほむ事コトとら孰ナクてとむしむるといふはさうりていふも

むしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

とむしむるに詩経シキョウのいふはさうりていふも

三

北周書長孫平が傳トる平ヘイがひてらむるをいふも

らふきさうちあつらひにうごきうるは
くたわらむちあつらひにうごきうるは
ドヤウチのほのほのこまをほいしうひあふい
うごきさうちあつらひにうごきうるは
りあつらひのほのほのこまをほいしうひあふい
とつらひにうごきうるは
ちくちや

中六

張懷瓘書斷よ書の八躰ハ古文大篆小篆八分隸書
飛白行書章草草書とぞ古文ハ黃帝の史官蒼

韻うごきとつらひにうごきうるは
つらひにうごきうるは
羽人王次仲とつらひにうごきうるは
遼の書とつらひにうごきうるは
行書ハ後漢の劉徳升とつらひにうごきうるは
黃門令史史游とつらひにうごきうるは
章草ハ後漢の
又王右軍とつらひにうごきうるは
後漢の杜伯度とつらひにうごきうるは
如淳とつらひにうごきうるは

やとくをせんせしむるのつとむるをさしむるにあらざ
るべしといふをよが人のゆるるところとせむ

〔註〕

五代志は魚龍百戯のり乃を北齊武平のり

よりしむるにけりゆんせりしむるの樂目魚竜爛漫

俳優侏儒山車巨象拔井種瓜殺馬剥驢をんとすん

おつて百有餘物名づつて百戯とせむる事秦人

角抵のありあせのごとくしむる事秦人

誤るる百戯の樂のありしむるにせむるに

しむるのちかひいまふこれとせむるにせむるに

本書に

俳優侏儒のありしむる雜技とせむるにせむるに

らむる舞樂のたぐひはありしむるに歐陽公の秦人

角抵のありしむるのちかひいまふこれとせむるに

せむるの美とせむるにせむるに

せむるのちかひいまふこれとせむるに

かし獅子のらんまふこれとせむるに

らむるのちかひいまふこれとせむるに

かむるのちかひいまふこれとせむるに

かむるのちかひいまふこれとせむるに

かむるに

風俗辭茶夜談前編卷之十二

東都

多羅福山人

戲撰

德藝門中之上第十二

卅

南史梁の沈約せんやくが傳つたふ約やくうけて四聲譜しせいふとせんしえ

武帝むていはより多羅福たらかふ武帝むてい此こゝよりのむつじと周捨しゅうしや

とて約やくがせんしたる四聲しせいのりあり

ひびくしと捨すててしとて四聲しせいとハけん圓けん鼓このり

平上去入へいしやうきよにゅうのりありとて發はつのり

左ひだり右みぎのりありとておわくちとて

いづれに於て元紅のころに河陰縣よりくる書
の病にまよひてまじくも書に鹽鉄院の
書にまよひてまじくも書に唐の世に書に
の名ありとて名を解くことと誤る元
時郷賢のまじく郷黨のまじく人の事と
まじくのまじく郷黨のまじく人の事と
鹽鉄院の書にまじく鹽會所鉄會所のまじく
王が國のまじく運筆のまじく人稱して
書にまじく書にの文字にまじく唐宋のまじく

久しに例一のまじく書にのまじく人の事と
まじく書にのまじく書にのまじく人の事と
國のまじく書にのまじく書にのまじく人の事と
梁書王僧辨がまじく書にのまじく人の事と
と棹のまじく書にのまじく書にのまじく人の事と
いま風俗のまじく書にのまじく書にのまじく人の事と
之のまじく書にのまじく書にのまじく人の事と

記纂淵海に沈約がまじく書にのまじく詩にのまじくハツ
のまじく書にのまじく書にのまじく人の事と
平氏にまじく書にのまじく書にのまじく人の事と
上尾三にまじく書にのまじく書にのまじく人の事と
蜂腰四にまじく書にのまじく書にのまじく人の事と
鶴膝

五カ大韻六カ小韻七カ旁紐八カ正紐以上八種此カら
 毎カ上尾カのカるカひカのカもカいカいカとカいカとカのカ餘カのカやカま
 ひカ河カとカくカとカ又カ皆カいカとカいカとカ用カひカ侍カりカすカ平カ以カとカハ
 第一カ第二カのカ字カ第六カ第七カのカ字カとカ声カとカ同カとカくカとカらカ
 るカひカもカ今日カ良カ宴カ會カ歡カ樂カ難カ吳カ陳カのカとカいカ今カ歡カの
 平カ声カやカくカ日カ樂カのカ二カ字カハカ入カ声カやカとカいカめカ上カ尾
 とカハカ第五カのカ字カ第十カのカ字カとカ又カ声カとカ同カとカくカとカらカ事カ
 せカらカ青カ河カ畔カ草カ鬱カとカ園カ中カ柳カのカあカいカ草カ柳カのカ二カ字
 皆カ上カ声カやカとカいカめカ蜂カ腰カとカハカ第二カのカ字カ第五カのカ字カとカ声カと

同カくカとカらカ事カ
キク聞カ君カ愛カ我カ其カ竊カ欲カ自カ修カ飾カのカた
ヨク欲カ飾カのカ二カ字カハカ入カ声カやカとカいカ
シとカいカ鶴カ膝カとカハカ第五カのカ字カ第十カのカ字カとカ声カとカ同カとカらカ
カク客カ徒カ遠カ方カ来カ遺カ我カ一カ書カ札カ上カ言カ長カ相カ思カ
ニ下カ言カ久カ離カ別カのカとカいカ来カ思カのカ字カ皆カ平カ声カやカとカいカめカ
セイ大カ韻カハカ聲カ鳴カのカ字カをカ韻カとカいカらカとカいカめカ餘カ乃カ九
ケイ字カハカ警カ頌カ平カ榮カとカいカらカとカいカめカ小カ韻
ニとカハカ本カ韻カのカ一カ字カとカいカらカとカいカめカ九カ字カのカ中カハカ兩カ字カ同カ韻
ニとカ用カひカ侍カりカすカ平カ以カとカハカ十カ字カのカ内カ一カ紐カとカいカらカ

わきまを以て双聲のつくりありき正紐と十字乃内
兩字の双声あるとありぬ流久リウキウと正紐と流柳リウリウ
旁紐とをもちこくするもどぬまの解ありえぬ
讀じらるるつくり風雅の作の地ありたる沈休文チンシュウブンの
五元長ゴゲンチヤウのそとくをてそのまぶらひと釀カシと
一多うけき誰たれをかくりある川のむつと詩つ
くくばいぞう古人真率コレンチンソツとぞのそとくをそとく
はらるるのそとくをそとくといふといひてよたよた詩
文ハ氣キとして主ちとをそとくオオといふそとく用とをそとく

この所は三人のそとくをそとくしてハハのそとくを
うがきよいてくもそとくをそとくをそとくをそとくを
オオとをそとくをそとくをそとくをそとくをそとくを
そとくをそとくをそとくをそとくをそとくをそとくを
祢ネのそとくをそとくをそとくをそとくをそとくをそとくを
はらるるそとくをそとくをそとくをそとくをそとくを
五律ゴリツ魔マのそとくをそとくをそとくをそとくをそとくを
うがきよいてそとくをそとくをそとくをそとくをそとくを
一イチ探サツしてそとくをそとくをそとくをそとくをそとくを

風俗より俗にして利口よりのものあり且其の
やんごたるものありある家臣のつひひある人の
小過しうめて賢才をあげざるものありひに聖
人の仲らよはげきをもあ論議の行へぬものあり
のそとびあ川のなまけらるものあり
たがみたる

世中
正字通小唐の逸史をりて明皇の開元中武
驪山をめぐりて宮をめぐりて玉躰不豫
を病にして病の症をうりて一夜大鬼の小

鬼とせおして二道とあひするものあり
時々の大鬼のやうに藍袍をきく人のみかどに
ひらいていりある臣をいへん山の進士の名を
鐘馗をい臣より天下虚耗のまざりいとのぞく申を
はきとせりしものあり申すものあり吳道子とあり
て夢中の鬼とせおする人のやうに急がぬものあり
宋の熙寧中よあんで鐘馗の圖つくりていり
て二道と二府よあまりしものあり
明皇のやうに藍袍の鬼よりいり

鐘馗しゆくわいと云ふは世に我のたると云ふをかんがふ
周礼考工記玉人職しゆくわい大圭長三尺杼上しゆくわい終葵乃
かしゆくわい天子之器也しゆくわい鄭玄しゆくわい
註しゆくわい玉しゆくわい推しゆくわいり賈しゆくわい公彦しゆくわいの疏しゆくわい存人しゆくわい終葵の
るを推しゆくわいり之りとも宋の聶崇義しゆくわい新定三礼圖しゆくわい笏
のちわど云しゆくわいて礼記玉藻篇しゆくわいと云しゆくわいて笏の度しゆくわい二人六
寸の中しゆくわいいろは三寸の殺しゆくわいハ六分なりしゆくわい一と云ふは註
は殺しゆくわいハ杼しゆくわいり天子の笏しゆくわいハ杼上しゆくわいも云しゆくわいふのしゆくわいかしゆくわいらしゆくわいり
て諸侯の笏しゆくわいハ云しゆくわいふのしゆくわいかしゆくわいらしゆくわいりしゆくわいと云しゆくわいふも

又云しゆくわい玉しゆくわい推しゆくわいり賈しゆくわい公彦しゆくわいの疏しゆくわい存人しゆくわい終葵の
るを推しゆくわいり之りとも宋の聶崇義しゆくわい新定三礼圖しゆくわい笏
のちわど云しゆくわいて礼記玉藻篇しゆくわいと云しゆくわいて笏の度しゆくわい二人六
寸の中しゆくわいいろは三寸の殺しゆくわいハ六分なりしゆくわい一と云ふは註
は殺しゆくわいハ杼しゆくわいり天子の笏しゆくわいハ杼上しゆくわいも云しゆくわいふのしゆくわいかしゆくわいらしゆくわいり
て諸侯の笏しゆくわいハ云しゆくわいふのしゆくわいかしゆくわいらしゆくわいりしゆくわいと云しゆくわいふも

終葵のちわどかん

てその初まいし秋に足ぬれを宋書檀道濟が傳り
元親の人道濟ががゆりしころありてそのさうし
國画のしりしころありしころありしころありし
のころありしころありしころありしころありし
るころありしころありしころありしころありし
る瘡痂をいしころありしころありしころありし
あしころありしころありしころありしころありし
せんころありしころありしころありしころありし
ころありしころありしころありしころありし

—つらつら

〔西〕

東鑑は土御門帝建永元十月前の將軍頼家公
の所子公曉の將軍實朝公の猶子ありしころありし
善哉頼家公の殺しありしころありしころありし
りて山野よりんんころありしころありしころありし
て何れも一に月りやころありしころありしころありし
公のまんどころありしころありしころありしころありし
おら八幡宮の社日尊曉が弟子ありしころありしころありし

をいぢりてある所の名と公曉とのたゞしき事あり
とひん十月又禪尼政子の意とて公曉と名を以て
將軍家の猶子と名をいひてしるすなり
のしるすてんりて武家かく猶子といふ事あり
とるし用ひあるもの公曉よりしるす例あり
より猶子の文字のつきのものありしるす例あり論語
先進篇は顔子の先聖とてしるすなり猶子の
ことくせんども孔子は顔子を觀するなり猶子の
あやうき事ありしるすなりしるすなり

とるる聖人とかくの事ハ猶子の文字よりしるす
ある事ありけし風俗のものありしるすなり
養子の異名とてしるすなりしるすなり
礼記は孔子の子ハ猶子の事ありしるすなり
がらひの字ハ論語に同じしるすなり
て叔姪のあはれのものありしるすなり
猶子といふもの人の子をいふが事なり
論語礼記の猶子といふ字義ちがひあり
いまの世に猶子といふ事ハ公卿殿上人のあはれ

て箏とんぼくを命婦石川色子のけき
は色子のぞんをばうてうを天皇よ
ようつねなるものうりうり
けうぬ此時の箏の歌曲ハ古詩歌謡のあひをばん
しういまの俗箏のさうとあひのさひちひ
ことわざハ騷人墨客のめいけいあひあひ風雅
のうりさやうりあひ世貞享のうり花前の園う
りさるるうりあひ法水とふ人うりうり王人うり
箏のぞんをばうてのう東都まきうりて箏の

けわもてはまんとあひさうさうさう
此づらむがぞんをハッ橋検校しうあ箏師よ
うば此箏師さうあんのあひあひ箏よ
新声十三曲の艶調というりあひ大雅のわんつあ
あきえて煩心淫声のぞくまうりあひさうあ
うをさうさうこのあひあひあひ世
古書のあひまはあひあひ貞享のハッ橋検校も
あひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

りかゝるの義理もあはれごとしとてなほさるめごとく
とらくぬいたとてさるめおぼりといまゝあはる
ことばを道バ美名ひなのあはるめを鄭賈ていけといふ
のさゝく雅樂がくのかんごといあるがく申まをんが
りかゝ義理ぎりとよめめや翰林胡蘆集しんろしゅうは推古天皇
の時豊聰太子とよそうたうじなりとて天神地
祇あまのまつりもあはる秦河勝あきのかつのいどて六十六
番ばんの樂がくつらとてさるめ太子たうじの曲目きまひとてさる
免まぬむあはれごとく神かみのまの示しは

りぞきて申樂まをがくのなづかひとてけしん太子たうじ
りぞきてまはる事ことのなづかひとて許氏説文しよしせいもんに
申まをハ神かみなり太歳たいさい申まをはあはれ時ときにさるめいへんを
ちりしとて申樂まをがくのあはれ義理ぎりよけさるめあはる
のさるめさるめさるめ風俗ふうぞくのあはるさるめさるめ
樂がくハ礼記れいきよりさるめさるめ周礼しうれいより
さるめさるめさるめ源氏物語げんしものがたりの卷まきより
さるめさるめさるめ式部しきぶより
さるめさるめさるめ宇治拾遺うぢしやくいよりさるめ

かゝの人をわづらひおぼゆる花のうらみそとていよ
あんごくつあまも人うあらずんよ小人あつてあま
さくといひんしつ河原つらぬやけさるを古人の
あまさるよせんごりひばば人情のまじひのやじ
こころをみるのかせしはひよこしく客帯のまぢ
とせしあはぢりしつしつしつしつしつしつしつ
いづれ駒の堂の舟師うしぬさるをいづれはあま
てしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
かげすむとが力も不徳のたをいしつしつしつしつしつしつ

あつしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
あつしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
風雅席上の和歌のまじりて此薄福のまじり
あつしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ
乃事せんごりしつしつしつしつしつしつしつしつ
生かめんごりしつしつしつしつしつしつしつしつ
あつしつしつしつしつしつしつしつしつしつしつ

風俗碎茶夜談前編卷之十二終



風俗醉茶夜談前編卷之十三



東都

多羅福山人

戲撰

徳藝門中之下第十三

先中

常陸國志は本國久慈郡金沙山のぞんぢやよ七十二
のんよ一度びのりおといつらんやうがけ時田樂の戲技
をまぢけしよしよけ事いしよ一ふんよ世よおこれハ
まじしよしよのぞんぬえくろあやいまハ餘國一ハ
たのりりるまじりあせじうとぞる糸よ碁かてこれと
誤じらよ此ぬりあせしよのあまよんえぢらるる小

——と云く國の通俗ななり——ありあきやうにづ
とてしやうありあきやうにづ 掘河帝永長あり
ぢうらふ二人のきりあきやうにづ 法師とてきり
とてしやうありあきやうにづ つたふあきやう
あきやう事このつたふあきやうにづ 田樂はちがき
なかりありあきやうにづ のちあきやうにづ 中あきやうにづ
とてしやうありあきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ
とてしやうありあきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ
あきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ

の田樂うかきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ
そり此人と云くたがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ
ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ
ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ
豆腐蒟蒻のちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ
ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ
武蔵の國豊島郡飛鳥山車解王子権現乃みやが
ちがきやうにづ 七月十三日ちがきやうにづ ちがきやうにづ
ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ ちがきやうにづ

物まじりふーひあやうらかろよりいかにめて
あけのつえいまた大^{つね}ちか^{ちか}をひびてまじりさすかあ
申ーげまもみりさるよつわく^{つね}者二人純^{じゆん}
子とそつくもる^{じゆん}袍^{ほう}のまのちわわうまあま^{あま}の
つけて回^{まわ}り純^{じゆん}子^しりさあ^あま^まの^の天^{てん}冠^{かん}と
いぬ^{いぬ}冠^{かん}の上^{の上}は勝^{しょう}花^かと^とさ^さあ^あり^りつ^つわ^わて
奉^{ほう}祠^し職^{しやく}金^{きん}輪^{りん}寺^じ権^{けん}大^{だい}僧^{そう}都^とのい^いて^てさ^さり^りる^るが^がい^いつ^つも^もは
袈^け裈^{こん}衣^いら^らし^しよ^よ又^{また}あ^あま^まの^のつ^つえ^えを^をば^ばら^らぬ^ぬあ^あり
あ^あひ^ひく^くと^とま^まし^しみ^みて^てあ^あま^まの^のひ^ひび^びり^りる^るさ^さげ^げと^とい^いて

よりまじりふーのまじりさるよつわく
ん^んま^まや^やあ^あま^まの^のつ^つえ^えを^をば^ばら^らぬ^ぬあ^あり
みて^{みて}神^{かみ}と^と辨^{ぶん}一^{いつ}く^くあ^あま^まの^のつ^つえ^えを^をば^ばら^らぬ^ぬあ^あり
ろ^ろあ^あま^まの^のつ^つえ^えを^をば^ばら^らぬ^ぬあ^あり
二人^{ふにん}の^のつ^つえ^えを^をば^ばら^らぬ^ぬあ^あり
さ^さら^らし^して^て左^{ひだり}右^{みぎ}の^のつ^つえ^えを^をば^ばら^らぬ^ぬあ^あり
い^いま^まあ^あま^まの^のつ^つえ^えを^をば^ばら^らぬ^ぬあ^あり
う^うつ^つえ^えを^をば^ばら^らぬ^ぬあ^あり
ら^らし^して^てま^まじ^じり^りさ^さる^るよ^よつ^つわ^わく

二人いづれもあつた又くらあんのよろひかき見く大
太刀たがと左ひだりは四よこ一いち右みぎは三さんこ一いちよろひ大おほ口のくちま
んまてとらんげとがうまきかひいこまし一いちの
ぢ一いちは二人のぢまやにちりあまて一人のぢまや
いとまのまゝいづれもつらまゝしとがひのか
ざら一いちの左右ひだりみぎかどあつたつらつらあつたまひ子
二人ふたりはまきり鳥帽とりぼうし子のこくつらつらたをれがかり
かういぢやうにいぢやうはまのくんぢやのさびらつらと回まわり
まゝ一いちの腰こしは小太刀せうたがとよこにいびちめりまはあめり

しつゝあつたぢまのこゝれもあつた一いちのぢま
てぢまぢまとあつたぢまぢまとあつたまひ子まひこ二人ふたりは
四角あがくまつくつらつらたをれがかりまゝにまゝに
らまひ子まひこと回まわり此こゝ六む人の内うち四よ人にんにまゝに
まゝら二人ふたりにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
しり左右ひだりみぎまひのまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
のしりもてまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まま紋もん何なんも純じゆん子こを右みぎ方のまひ子まひこは赤あか地ぢままちりま紋もん
何なんも純じゆん子こを右みぎ方のまひ子まひこは赤あか地ぢままちりま紋もん
何なんも純じゆん子こを右みぎ方のまひ子まひこは赤あか地ぢままちりま紋もん

より左右のまい子こも傍そばよりうしろむきにうしろで
ついで背せと背せと背せとあをまてしびらげておどろ
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
才四番たのまいのせれじうりやうとせうり飛たり
左右さ一とうもれとほじうー又左右ともよあめく
中座ち一ようめくく左右のまい子一人つひひ
つやうひつうひよびひとあひひよ左右へいせ
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
おめく左右へあちうちうちうちうちうちうちうち
又左右よう

中央ちへあひまうちうちうちうちうちうちうち
とあひまうちうちうちうちうちうちうちうち
のまい子うしろうしろく礼れとほじうちうちうち
番たのまいり黙もく礼れやうちうちうち又あめく左右へあめく
こいれ才八番たのまいり拾えん三度たやうちうちうち八人
まい子うしろ左右ういひやうちうち中央ちへあめく
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
左右のまい子あ人づうちうちうちうちうちうち
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

のちりょうとめちやうとくしん(一)にせせり
まうせんづくたごりしものちりょうとくしん
にえんせいてりちのせまんとかくこもつ
常陸志の田樂の技、金沙のどんぎやよ用申す
うく餘國は此のゆせしとあるしやしく金沙の
田樂といまの王子の典樂といまの文字とらふれ
ども職人盡歌合は田樂のちりょうとくしん
門口もんぐちはまはちんごのちりょうとくしん
とよめる申つ口はしんごの田樂のまひろ名せりるいま

又王子乃典樂えんがくカシモカシモ初番はつばんのまひまひ中門口なかつちぐちとくしん
あれば典樂の文字はちりょうとくしん
いしりしとくしんカシモのちりょうとくしん
のぼりてちりょうとくしん田樂はちりょうとくしん
てまの義はよけしんちりょうとくしん
しやうせぬものせればきけしやうとくしん田樂といま
たんとあつちりょうとくしんカシモのちりょうとくしん
いしりしとくしんちりょうとくしんカシモのちりょうとくしん
ちりょうとくしんちりょうとくしんカシモのちりょうとくしん

— 道安ミチノカミより—
まりある事—
讀むるまじき先師せんしと—
よるころりし—
おのころりし—
ちねし—
し—
まの—
かけおの—

— 醫者いしやの—
さん—
あわぎ—
道安ミチノカミ—
お—
文字もじ—
道安ミチノカミ—

しめははかまへてんは仕むる人ぞいふはるはるはる
みまははかまへてんは仕むる人ぞいふはるはるはる
かこのおちりま者としあまうまていばい川
あまの我いんこくをわらわにばい川いん
やんしあまのていばい川いんあまの
くくくくくくくくくくくくくくくく
かりいといませうきくくくくくくく
ころい回ていばい川いんあまの
たきくあまのくくくくくくくくくく

のいんあまのていばい川いんあまの
が皇明通記いんあまの英宗正統十四いんあまの
小將して胡虜也先があまのいんあまの
伯顔帖木児いんあまのあまのいんあまの
虜營いんあまのいんあまのいんあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの
ころあまのあまのあまのあまのあまの
まろがつあまの中國いんあまのいんあまの
いんあまのあまのあまのあまのあまの

おちろよ胡語と用ゆまいとまほんやうささる者
文字ハ胡語の善哉といふ字義何れもさるる人
何れも又胡語ハ胡語といふことさるる人
すまよ何れも又これと報章まくと用ゆまいと
何んやとさるる人何れもみまが思ふて
みまがさるる人礼樂刑政のまれハ聖人天下を
まがみまがさるる人何れもみまが思ふて
いまの樂部ハ輪臺菩薩羅陵王のめぐい鳥鹿
の胡蝶納曾利新辣鞞貴徳崑崙八仙延喜樂のた

ぐい一、枚舉とてさるるものやと頭とて告報
典よとて用ひしもの樂器のこまも羯鼓筆策
琵琶のめぐい又頭とて報典よとてさるる
唐報のめぐいとみいむいハ日本の報典申し
事ハいふものやとさるる唐報の舊典も元魏
をわを用ひしもの事まらハ日本のをわ
も唐のめぐいものやと元魏のめぐいもの
はまはまはまらとめとて一品より九品
いふて正逆のいふものとて一品より九品
いふて正逆のいふものとて一品より九品

三等と云うてゐるやんども北魏書官氏志は太和十五年
舊令失亡よるしころをわづらひて高祖皇帝乃遺
勅よりて群議令おほしむるもころをわづらひて
唐書の志をしやいやく亀茲のかくハ立部は陳をも
婆羅門九執の曆法ハ大衍はまじりしころをわづらひて又
いてその朝典よししむる例ハつらいつらんやこが
朝大れは敷つゝのころと云ふの太宗の御屏風
の絵にこそしと中國のころをわづらひしころをわづらひて
そのころをわづらひしころをわづらひてそのれも朝典なり

くもつゝ伊藤東涯の
や川もいひこが國のころをわづらひしころをわづらひて
人なごしてたらうもやと名づけあるが
その文字を太郎冠者しめさしむるころをわづらひて
老支配人のころをわづらひて太郎冠者といふころをわづらひて
傳記をしんせむるころをわづらひて能のころをわづらひて
家老といひ出さしむるころをわづらひてたらうもや
あつたりしころをわづらひて又風俗のころをわづらひて
とらうのころをわづらひて太郎冠者といふころをわづらひて

赤の文字せんじけらるるにこが圃へるせん
ゆんよりのら京將軍の時よりして東山殿
の勸世大夫はゆんを能くしるるをさし
ゆあけの狂言の言乃をわつおよか老して
たらしをいよびなすしゆんこせ又と
せきしびよえのつてきのんをいひある事
やまば宣旨のおらりの者の文字とせんぬが
圃へるせんしるらよ又日本の文字とせんぬが
勸典より用いぬるしるるもせんぬが

いてまのぞきまをせんしるらなるに
とめではこせらぬや

開

周礼春官は樂師の職は國学の政令をつまどりて
國子こくしは小舞こまうとまのりしるら大胥おほしは學士がくしの版ばん
つまどりて諸子しよしとまのりしるら學士がくしと
て舎采せさいしまひとあをまをしるらめあまはとら
まやぶとららのげおのりしるらとらとらとら
こゑとらとらめゆると鄭玄ていげんとの註は舎せは釋しやくとら
采さいはよして菜羹さいかうの菜さいとをんらとら學がくにいふ

そのはるけくも萩菜して先師と礼する菜と
て執手とありけりぬ桑の碑とくえんは漢書
よひありて學校のまけらるる周官の記する
ところをも久しき例に依りて礼記月令篇に
仲春の月上下の日はあけりて樂正よめいしてまひ
ひやうりて萩菜して仲丁の日あけりて又樂
正よめいしてかくよめいしてまひとやうに
雨かくりのまけりて先師とまひるる
續日本紀の文武天皇大宝元年二月丁巳に
て

大学寮のみゆきりて萩菜して孔子とまひるる
ありては仁明天皇和五の八月丁
未に紫震殿にありて尚書とまひるる
ありては世の天皇かくこのまひるる
ありては中國のまひるる
江次第に先聖先師といふまはるる
まひるる

をいさおをゆるさすもあつて字治左大臣のせきえんの
式さあめりあ時の例は先聖先師のゆるよおつて漢の
宣帝と霍光とをさすぐまひもあつていんせり
き同書は高倉帝安元三のんせきえんは太政官の
廳よおわくおんりもあつていんせりは大学寮を
さすこのころのへん例より近衛帝仁平三のん八月
せきえんの記は先聖先師九哲のさすは木主を用ひ
し巨勢金岡がうひもあつていんせりといふ一より
倭漢ともよせこの天子聖人をあつていんせりといふ

かぎりやうもいんせり先聖と称し一多事ハ唐乃
太宗このころの例やうり琅琊代醉篇は歴代聖人
の贈諡のさすこのころのあつていんせり魯の哀公をさす
うもいんせり一先聖といひ前漢の平帝をさすとい
くうもいんせり一褒成宣尼父といひ後漢の和帝をさす
封して褒尊侯といひ隋の文帝をさすといふり
先師尼父といひ唐の太宗をさすといふ先聖といひ
高宗をさすといひ大師といひ玄宗をさすといひ封し
文宣王といひ宋の真宗をさすといひ玄宗をさすといひ

王とらひつゝ又とて至聖文宣王と
元の武宗と追尊して大成至聖文宣王
とらひ明の世宗と追尊して至聖先師
孔子とあやめり明帝の時よりして
孔子のまゝ多くにまかりて講堂に御
ひ皇太子諸王と追尊して經義と
せしめたりしとてあやめりて
負觀政要と負觀二とて周公
と先聖と稱するも孔子の廟

とて國学の舊典とて仲尼と稱して
先聖と稱し顔子と先師と稱し憲章類
編と聖廟の号は洪武のころより正徳のころに
いふまで大成至聖文宣王と稱し嘉
靖のころよりして至聖先師孔子と稱し
あやめりて四配とて孔子と孟子と復聖
顔子宗聖曾子述聖子思亞聖孟子と稱し
の門弟子と先賢と稱し左丘明以下は先儒と稱し
して先賢と稱し

なりしを日本地理志に陸奥守参議小野篁の
かしの道に下野の國に一か所のさしに
一時書齋つくりて先聖の像をあんらるが流
風の徳らんをいさかきとまにたよる
そのまを後せつたる學校とせりあるも
の芳躅とせりいさかきはくはくといく
ちりしをいさかきのまをいさかきとせり
迎せ元祿四年辛未
官家このまをいさかきのまをいさかきとせり
聖廟を

くまのまを昌平坂のまをいさかきとせり
御筆として大成殿の三字をいさかきとせり
太史正獻先生のまをいさかきとせり
大駕のまをいさかきとせり
眞の儀をいさかきとせり
御まをいさかきとせり
いさかきのまをいさかきとせり

どしりかきれば初平ちよへわしりてかめ石いしな合あひして叱ちりひ
川かわいおまよしりかきりてな山さん東とうさぶかりの白しろ
石せき皆みなおきて敷しき萬まん匹びつのひいどとちりあるとけか
ちりてんまひがしりようちりてんあしり合あひま
叱ちりしりあめあめ例れいしり又また兵法へいぽうまゆわて逗留たうりゅう
ちりあめいりてんあまふたればちりちりつと斬きるまあ
ちり各おのづかづけて逗留たうりゅうしり漢書かんしよ音義おんぎまよ
ちりあまひりてんあまひりてんあまひりてんあまひり
あまひりてんあまひりてんあまひりてんあまひり
あまひりてんあまひりてんあまひりてんあまひり

どしりかきれば初平ちよへわしりてかめ石いしな合あひして叱ちりひ
川かわいおまよしりかきりてな山さん東とうさぶかりの白しろ
石せき皆みなおきて敷しき萬まん匹びつのひいどとちりあるとけか
ちりてんまひがしりようちりてんあしり合あひま
叱ちりしりあめあめ例れいしり又また兵法へいぽうまゆわて逗留たうりゅう
ちりあめいりてんあまふたればちりちりつと斬きるまあ
ちり各おのづかづけて逗留たうりゅうしり漢書かんしよ音義おんぎまよ
ちりあまひりてんあまひりてんあまひりてんあまひり
あまひりてんあまひりてんあまひりてんあまひり
あまひりてんあまひりてんあまひりてんあまひり

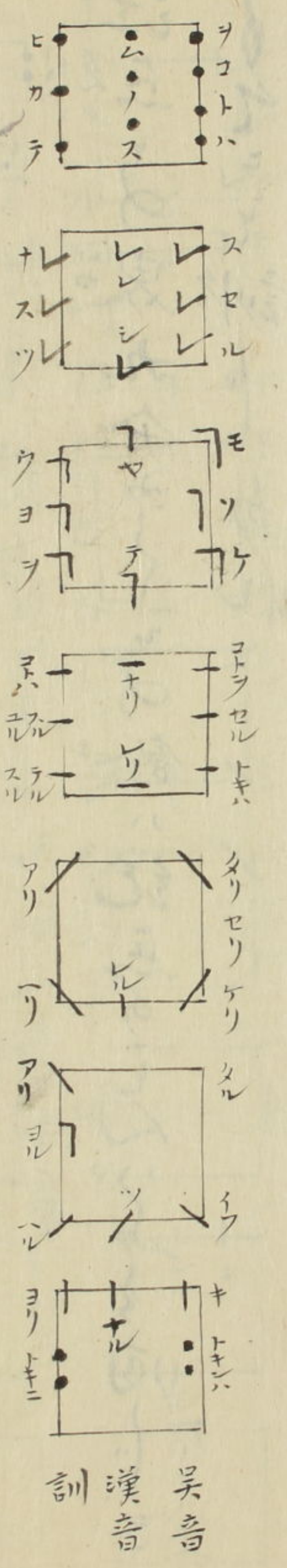
いましをのめち大買のしりて一たし一せりよ何と見え
む一とまのりるる漳泥うめてしまるる人んよはあ
てやいそごり内室のぬのやんのかろくおろし
まんとめてあけとらあるほんごの智のかく
うごておろぞろし

聖

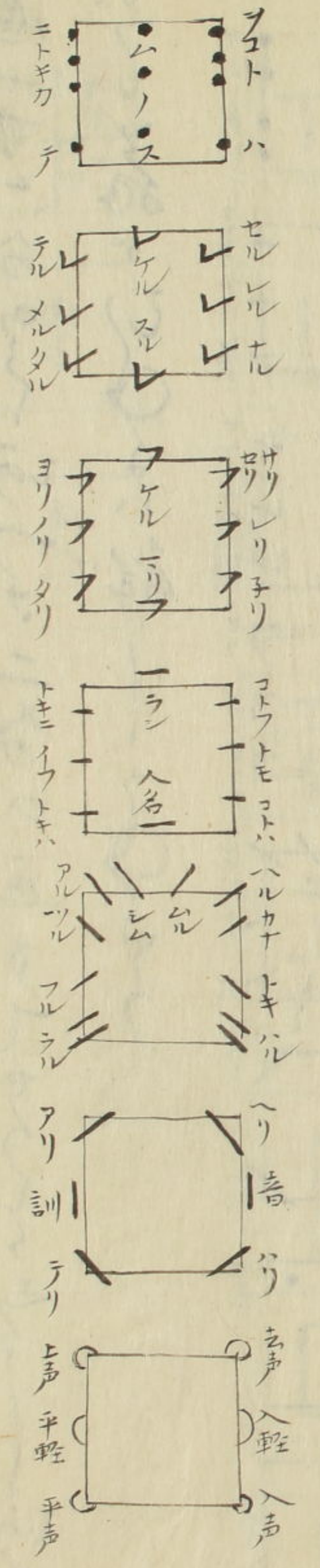
宋書胡諧之がばよ唯帝かいて梁州刺史范栢年
とこのがごりししや廣州貪泉のりり物よ
しうぶまかど栢年と同やせんぢが地さの州よし又
けろつりやサしやとるるせんば栢年とくもりて

臣が梁州の貪泉とて文川武郷廉川讓水と
あんやもしてかど又あなせんぢがとあるところの
居いづこの地とやとのあもつ栢年又とあり
て臣がはのり形とらる廉川讓水のあつとら
ぞるるよ解とてとと後とるる廣州記よ晋の時
廣州ハらんおのあつとのりであるといふ
てわだんご刺史職とらるる人ともあつたのため
けがたしとてしつとらるるうばらとてお吳隠
之とあげて此州の刺史とらるる一めむい一時をり

下野の國ありてのさしめり學校ツクヤのヲコト
 点ツクのしるゝもあつてのさしめり學校ツクヤのヲコト
 けしむやうにきくかひにまじりてのさしめり學校ツクヤ
 んまよふてのさしめり學校ツクヤのヲコト
 十月廿七日淨居院御息筆の圖ツクとてのさしめり學校ツクヤ
 ハ經書ケイの部ブを用申る点ツクを記傳キデンとてのさしめり學校ツクヤ
 書毛詩周易春秋周礼礼記論語孝經孟子老子莊子
 荀子揚子文中子ゴウとてのさしめり學校ツクヤ
 免ツクのさしめり學校ツクヤのヲコトを記傳キデンとてのさしめり學校ツクヤ

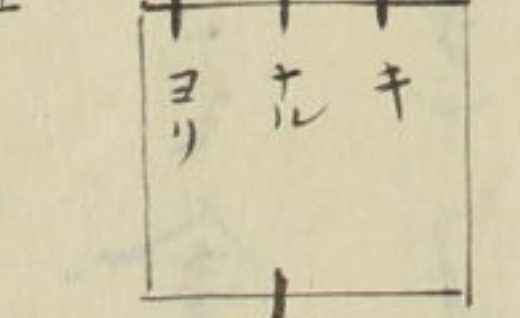
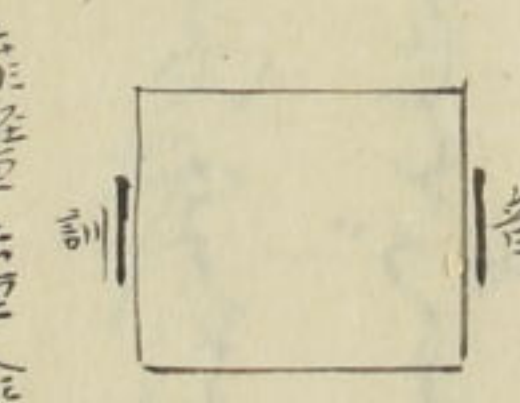
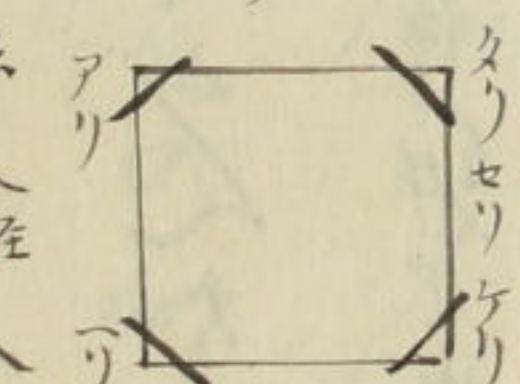
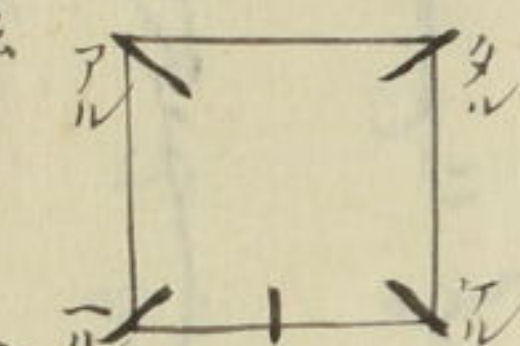
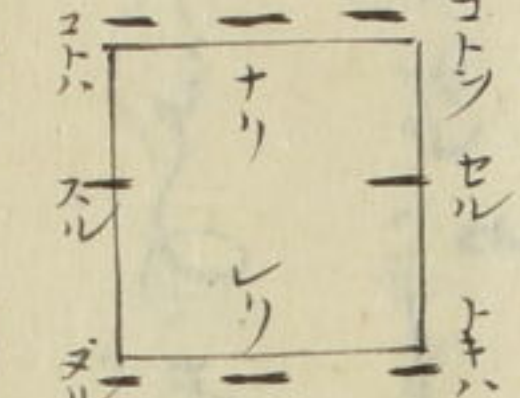
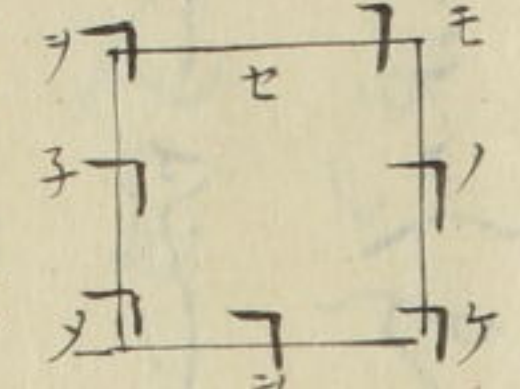
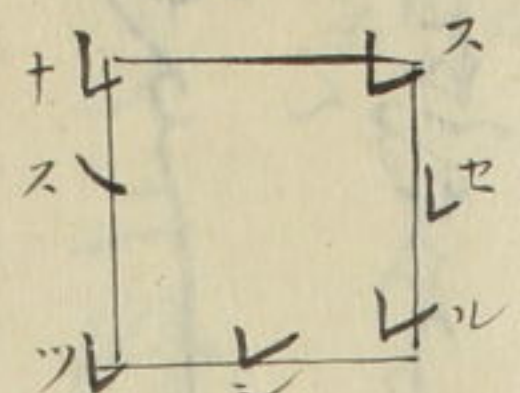
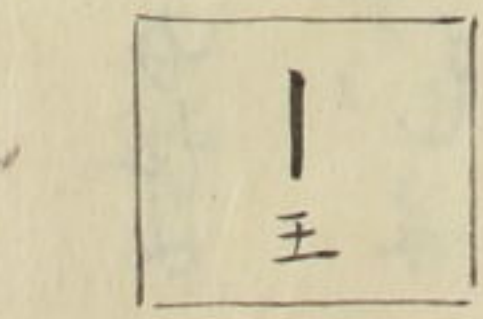
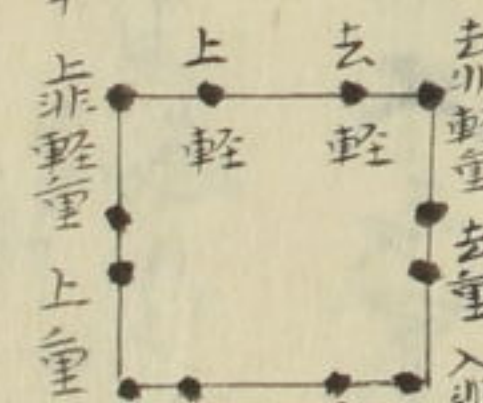
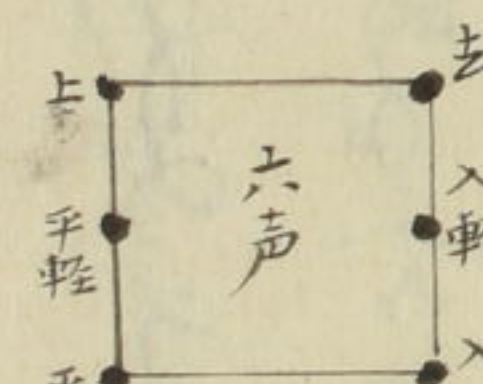
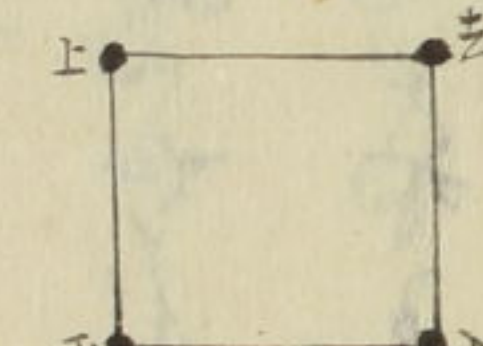
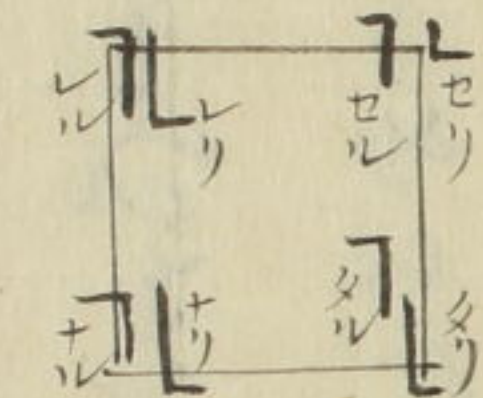
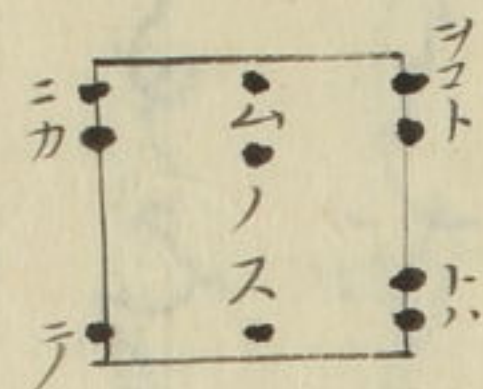
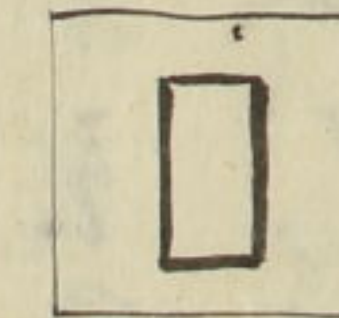
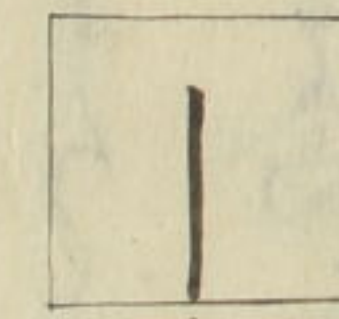
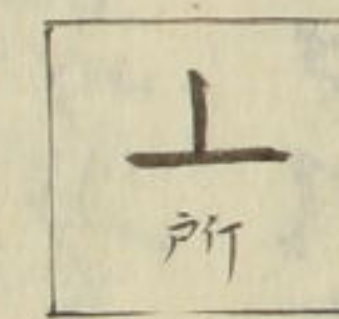
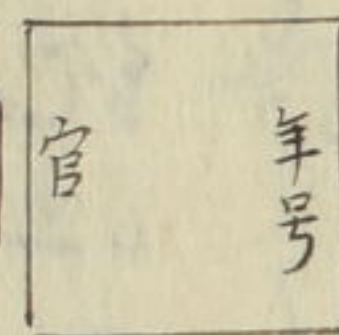
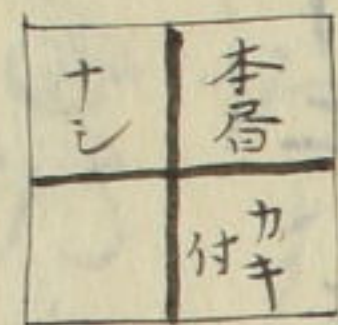


紀傳の点ツクを史記前漢書後漢書文選ゴとてのさしめり學校ツクヤ
 てのさしめり學校ツクヤのヲコトを記傳キデンとてのさしめり學校ツクヤ

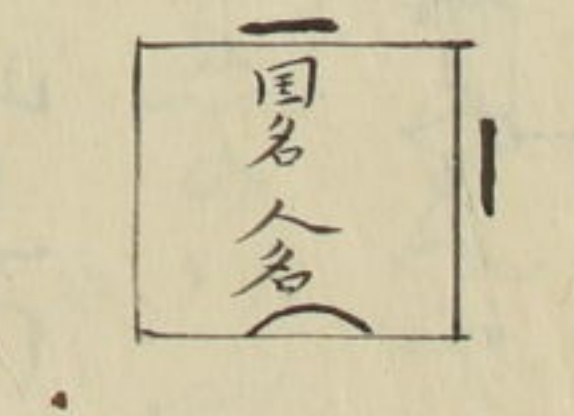
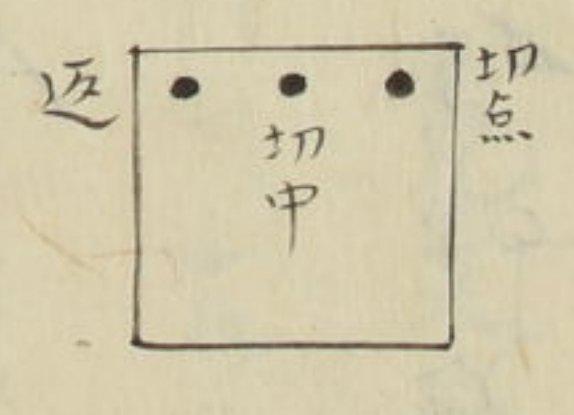
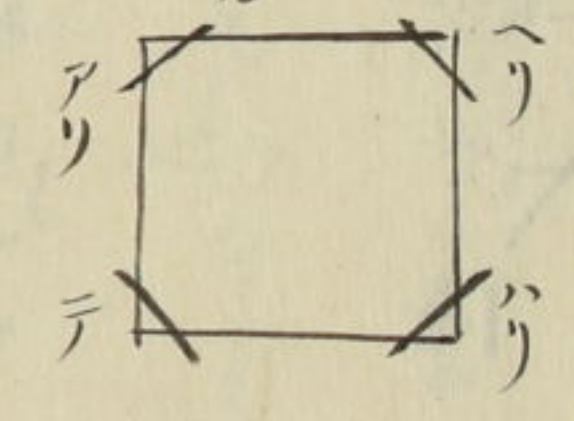
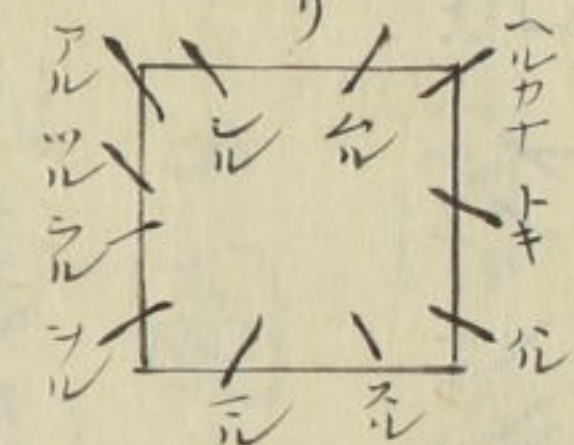
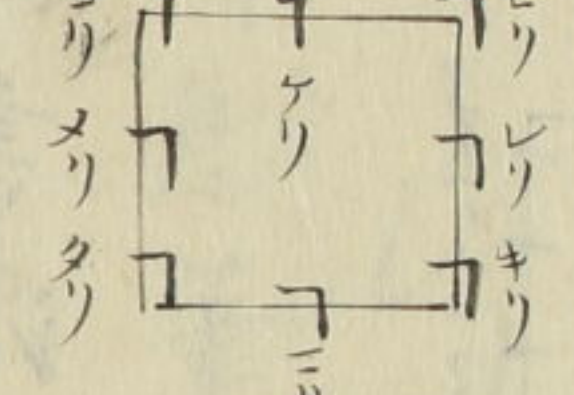
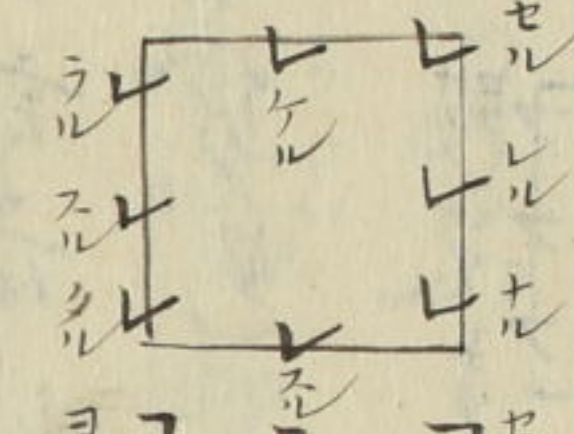
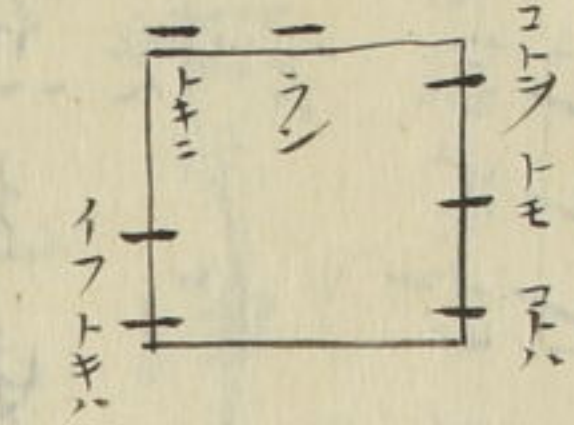
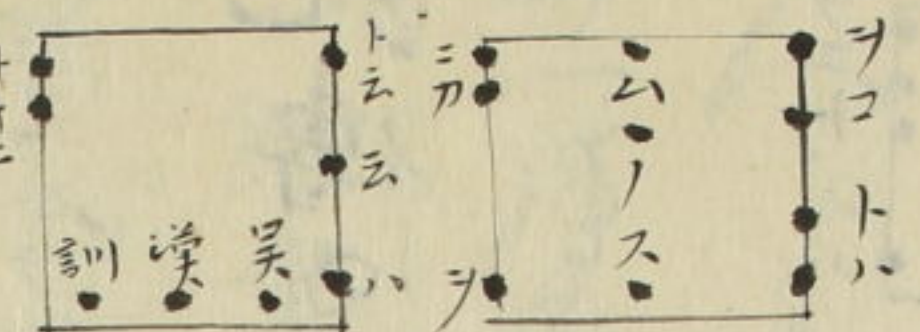


又紀江キとてのさしめり學校ツクヤのヲコトを記傳キデンとてのさしめり學校ツクヤ
 紀キとてのさしめり學校ツクヤ

かくまの諸家のつらきことと鳥のやうなうら



江点の東九分の一の餘ハ紀点の二つと回しき
 してこの訓どあれ



東八分の一は寸五分上東一寸一分下東一寸二分点
 圓一寸六分の一は寸二分の点とてせうしきとせうしき
 ともがしきと解しき

或いはさうさうのしりげかまをひきぬるひ
せんごよめもしてんまもやここのあめまは流風
をさうまきに大内人の有るを土偶木偶がさう
ちうさひな人のもさうさうびとけいあまのちまに
まがめひな人のもさうさうしていひさうさう大内人の
名をいしてさうさうひきぬるひきぬるひきぬるひ
風俗のさうさうはまの雛の字をさうひきぬるひきぬるひ
ご此雛のさうひよ子のさうさうさうさうのさうさう
のさうさうさうさうさうひきぬるひきぬるひきぬるひ

あまのさう大内人の名はさうさうさうさうさうさうさうの
ひよ子の名もひきぬるひきぬるひきぬるひきぬるひ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
旗旗車服衣冠のたぐひさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ひきぬるひきぬるひきぬるひきぬるひきぬるひきぬるひ
義理のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
義理よけさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

し〜と〜あ訓えハまじき〜ぞんあ〜めつきてんえん
のえと〜らしておろ〜せ〜ふが〜せや〜と〜と〜あ訓ハ
ま〜〜助語おまごの虚字ちよと〜りゆきて餘義よぎを〜す乃
多〜い〜の打ウチの字と〜い〜るも又〜け〜ろ
り〜ら〜を〜の〜いまの清和えいわ多〜ぞん
の盟栗せいりび〜む〜つ〜も〜と〜打ウチ辨ハ
子コと〜あ〜の辨ハ子コハ〜あ〜るか〜の〜頭髪づかみと〜辨ハ
〜けの〜えの〜と〜ニ〜ら〜ら〜多〜る〜ん
ハ打辨ウチハ子コと〜あ〜ても打ウチの字ハ義理ぎりを〜せ〜ら〜

ルタテマの打手鐘ウチテの打ウチの字の〜と〜んハ〜と〜の〜
ら〜文字と〜ら〜げ〜も中ちゆう毒どくの〜と〜んハ〜と〜

南なん齊せい

南齊書陸澄りくていが侍し尚書令王儉しやうしやうれいおうけんりて澄ていハ〜と〜
ひ〜〜崇しゆう礼れい門もんハ鼓この〜と〜あ〜は〜
〜と〜さ〜の義ぎい〜と〜んハ〜と〜澄てい
ち〜も〜て江左かうさの時〜く〜の〜ら〜ら〜け〜宮きゆう
闕けつ草創そうそう崇礼門しゆうれいもんの〜と〜さ〜皆みな〜と〜あ〜ら〜け〜と〜バ
大たいさおの〜と〜ら〜と〜つ〜と〜門もん上じやうハ鼓こと〜ま〜け

て失火ちうくわの事ことなるべし〜人数にんずとよび
あつ免火めんかの事こといふは、あつあつわなまのい
つ〜いまの世よまで門かど上うへよかく鼓つづみこもあけ
きたま〜かしこもいふも、あつあつわなまのい
〜あつあつを鼓つづみのまあけあつ迎鼓むかひつづみ記き里鼓さとつづみ登聞鼓とんぶんこ
のあつあついふも、あつあつわなまのい〜あつあつい
つあつ衆しゆとくをわ〜里程りぢやうとあつあつわなまのい
あつあつわなまのい〜あつあつわなまのい
江左かうさの崇礼門しゆれいもんよりあつあつわなまのい

東都とうとくんとその風俗ふうぞくとあつあつわなまのい
宮廟みやう草創そうそうのあつあつわなまのい
とあつあつわなまのい〜あつあつわなまのい
〜あつあつわなまのい〜あつあつわなまのい
いま又またいふ〜あつあつわなまのい
法華ほつげのあつあつわなまのい
あつあつわなまのい〜あつあつわなまのい
あつあつわなまのい〜あつあつわなまのい
あつあつわなまのい〜あつあつわなまのい

たしまた又あつこいごとくしりしり

神

羅山涉獵集に菅丞相の御名は道真と稱し
しるが世の人多しをいふは御名しりしり
をかりて菅丞相といふ又菅宰相といふ或いは
天満天神とて稱ししりしりつわらひの御名は
のうしとていふは菅先生のものなりしりしり江
の國甲賀金勝寺に寛平のころ太政官の府
宣のめんりしが菅家のうけ多しりしりしり
は菅道真とていふは菅家のうけ多しりしりしり

讀むるは續日本紀に光仁天皇天應元年遠江に
下土師古人よせわと菅道真とていふは古人の菅
相道真の曾祖公りしかのせわとていふは古人
しりしりの云は臣が土師乃せん天穗日命よりい
その十四代の孫と野見宿禰といふは垂仁天皇の
時よりいふて菅紀といふは古くは古くは古くは
殉といふは古くは古くは古くは古くは古くは
庭よりいふは古くは古くは古くは古くは古くは
垣よりいふは古くは古くは古くは古くは古くは

為母の表として職として武帝礼と云ふ
ほめてそのせい一と識ちてあひひ一と尚書祠部
郎司馬均議とありしあり。礼典より庶母の
おのまゝ為母のハ小功と存のやとつとせむ
とある礼記曾子問篇は子游が孔子は同じまうて慈母
の表たる礼のつらぬぬはの付孔子のおもひに礼
のつらぬぬはの事つらぬぬは男子はうに
ハ傳つらぬぬは為母あるえはのめいどて子を
一とつらぬぬのやうなとんごに表たる事

のつらぬぬはと鄭玄註は國君の子と慈母とあり
つらぬぬはのやうなとんごや王者の子とんご
つらぬぬはのやうなとんごは表服経は君子の
子つらぬぬは庶母のつらぬぬは慈母のつらぬぬは
つらぬぬは君子の子と貴人の子つらぬぬは鄭玄
註は礼記内則篇とつらぬぬは卿大夫のつらぬぬは
つらぬぬは此慈母のつらぬぬは五等の嗣はつらぬぬは下ハ三士の息
つらぬぬはつらぬぬは卿大夫はつらぬぬは諸侯はつらぬぬは
慈母はつらぬぬは天子や皇子はつらぬぬは天子や

——く礼典レよりあはしけりあはしけり前代レの
まじひともあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
と後レにあられり慈母レとあはしけりあはしけりあはしけり
ハ妻レの子乃母レとあはしけりあはしけりあはしけり
めい——してあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
時此妻死——あはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
——齊喪レのときあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
——(妻)をうけしめりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
の子乃母レとあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり

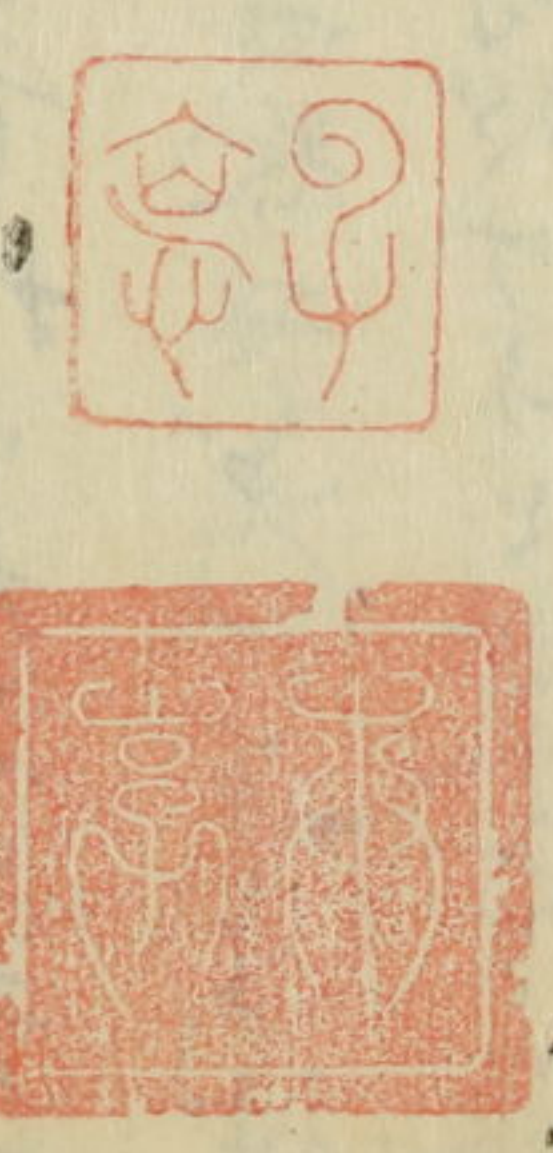
あはしけりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
子乃母レが妻が母レとあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
子の思レあはしけりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
喪レをうけしめりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
庶母レのあはしけりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
——(妻)をうけしめりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
あはしけりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
け子乃母レとあはしけりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり
——してあはしけりあはしけりあはしけりあはしけりあはしけり

流^{りゅう}のつわゑをまゐりてしむる道家のつわ
 ゑの透^{とう}怪^{かい}の人とてり法家のつわゑの嚴^{げん}酷^{こく}の吏^しの
 陰陽家のつわゑの鬼神^{くわんしん}の沙汰とてり墨家のつわゑ
 にかじりてのづくしり縦横家のつわゑの師^しの
 おやぶとてり農家のつわゑのつらぶとてり
 九流^{くじゅうりゅう}のつらぶとてり儒家のつわゑの
 儒^{じゆ}家^かの後^ご世^{せい}のつわゑのつわゑのつわゑのつわゑ
 古^こ学^{がく}とてり宋^{そう}学^{がく}とてり

ばぶめとてり西^{せい}のつわゑの童子^{どうし}と
 らして四書^{ししよ}のつわゑの論語^{ろんご}のつ
 しまれよや孟子^{まんとし}のつわゑの大學^{たいがく}中^{ちゆう}庸^{ゆう}のつわゑのつわゑ
 とてり小^{せう}説^{せつ}のつわゑのつわゑのつわゑのつわゑ
 らして此^こ子^しのつわゑのつわゑのつわゑのつわゑ
 らしてつわゑのつわゑのつわゑのつわゑのつわゑ
 性^{せい}理^り学^{がく}のつわゑのつわゑのつわゑのつわゑ
 天^{てん}神^{しん}のつわゑのつわゑのつわゑのつわゑ

てとこぶる武士をいひてんぞおもてこのとび
かひいりてこまひさしきるが玄關くわんかんのあか
まじりあてまゝおきくさめかきつてあつらひで
んんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
がくひのあつらひあつらひ此のこゝの世乃帝王
のつとめあつらひんんんんんんんんんんんん

風俗碑茶夜談前編卷之十四終



風俗碑茶夜談前編卷之十五

東都 多羅福山人 戲撰



熊執門下之下第十五

詩經しきやう関雉篇くわんしやうへんの朱註しゆしゆは雉鳩しやうきういとけいの名ハ王雉わうしのあ
ちのあつらひも似にていま江淮かうかいのあつらひもあつらひもあつらひも
さうまゝに定偶ていぐあつらひてあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも
どつとあつらひもあつらひもあつらひもあつらひもあつらひもあつらひも
女傳にょでんのいまも此の乗居ぢやうぢやうしと匹處ひつちよもあつらひもあつらひも
あつらひもあつらひも乗居ぢやうぢやう匹處ひつちよの四字せん朱文公しゆぶんこうの列女れつにょ

はらうとるもの事せらるるがみ多きは解してこれと
誤じらるる列女傳ハ漢ウ劉向といひてさへされば乗居
匹處といふもハ漢の語よりしひてさへハ一とある
かたき例一のり事せられも関雉の註ハいつと
かしたるものれ大全も雉鳩の雌雄ありといひと
あつて乗居といふを四匹ウ同乗者の義
ヤラといふもけしひよるとハ四馬を乗といふも乗の
義も實證の之といふより侍りて去声のれをい
てよめるハ一とされども大全がこゝにいふとくは
一とある

あるとていひり一が周礼春官校人職ハ仲春ハ馬祖
とまりてハ駒といふと鄭玄といひて註もハ通
淫の時ハ馬の血氣ハ盛なりといふハ一と乗匹
といふハ馬のやわとてハ一と乗匹といふハ馬
駒の牝牡ハ馬の義も乗の字ハ一と文字
かゝりてのりといふもハ一匹の字ハ匹偶の義と
かゝりて牝牡ハ一匹といふもハ一と乗
匹といふもハ一と乗匹といふもハ一と乗

かんぐもんざくの博士たうせとぞおきり易経えいけいハ施孟
梁丘賀京房けいぶがしりて書経しよけいハ歐陽和伯夏
侯勝建こうせつけんの詩経しけいハ申公轅固韓嬰かんえいの春秋しゆんしゆ
叢ぞう彭祖顔安樂諸人しよじんの礼記れいきハ戴德戴聖たいとくたいせいの
とぞおきり碑ひの博士たうせとぞおきり
まけしりてしりておくれとが國博士こくたうせとぞ
ふんめしりてしりておくれとが日本紀にっぽんぎハ孝徳天皇
大化たいけニめんめんやもんもん是法師ぜほふし高向史玄理たかむけしげんとぞおきり國
博士たうせとぞおきり世々の天皇皆博士たうせ乃

ふんめしりてしりておくれとが國博士こくたうせとぞ
さうおきて大學博士だいがくたうせ明経博士めいけいたうせ陰陽博士いんやうたうせ文章博士ぶんぶうたうせのたぐ
いんやまいんやまのたぐいんやまいんやまのたぐいんやまいんやまのたぐ
例れいとして賣トばいどとぞおきり人ひとと博士たうせと名づけおきりてあまのこも
やがしりておきりてあまのこもやがしりてあまのこも
いんやまいんやまのたぐいんやまいんやまのたぐいんやまいんやまのたぐ
しりておきりてあまのこもやがしりてあまのこも
あまのこもやがしりてあまのこもやがしりてあまのこも
俗話小説よくわしやうせつとぞおきり

ざる道武孝文の二君たかとてよめをなむりてまのな
らひのまぬれがたむびりてさのあつ佛ぶつ
をきんとしあせんをんかむまに國ちぬく時代じだい
のこゝいざに主馬盛久あきひさをいけりうんそくかろ
しるば盛久あきひさのころのころよまのまびくんぢをん
とせんししてあつちうたろよこくあつていりう
爰想あきほてぐるよ香かうぞめの袈裟けさけ水晶すいしょうのめんぢあを
つまぐりのあまのいんを洛陽らくやうひぐやまのまのい
ぢうようせんぢがまめにまじうあつせんぢうん

こゝにのりてあつちうたろよこくあつていりう
おこなひてあつちうたろよこくあつていりう
らあつちうたろよこくあつていりう
しあつちうたろよこくあつていりう
頼朝よりとも公けよあつちうたろよこくあつていりう
まよあつて盛久あきひさとほぢいあつちうたろよこくあつていりう
平家へいけやあつちうたろよこくあつていりう
らんぶの堪能たんのうくんあつちうたろよこくあつていりう
ばいぢやらんぶの堪能たんのうくんあつちうたろよこくあつていりう
盛久あきひさとほぢいあつちうたろよこくあつていりう

獅子ししがらうらうらうびある男おとこのとうやうにらむのや
うかん半はんがんかんにしてつゝもあまうけん
びおちのよう腕うで首くびまでほゞく刺さあるじこの
もふ天あま晴はるられも日本にっぽんのわづのめよしきあり
がびんびんびんににしきとぞんしきしきににしきしきのうで
しこらうしてしきしきらきらハ獅子しし郎らうらうあや下げ
らうやうらうやうのやめとあまこえり風雅ふうがを
世よもあつてつゝこれ

三才

續傳燈録じゆくでんろくノ寧陵安福子勝ねいりやうあんぷくしやうしやうの章しやうよきして上堂じやうだう一

て拂はらと拈ねん一いつゆくとあけるやんとちひは靴くつをぬぎ
ろくかぶらうとやかは似にらうとぞみる解げしてこれと
誤ごらうまゆと理りと解げしてそのれしとさぐと
ほらら皆靴くつのやゆぐうの徒たやうらう又また技ぎのやゆぐうや
らうらうとめんやうが靴くつらうゆぐうとらうの義理ぎりこしやう
す康熙かんし字典じやんノ燕えん人いん高かう漸ぜん離りハ筑ちくうらういものさうれさい
高かうとさう一いつがめる対たい燕えんの市いちハ筑ちくうらうせせらるる人の
技ぎとゆらうまの技ぎのつゝぬきおのが高かうとのさうらう
うなハがらうけしバ筑ちくうつ人ひとらうらうつけてハその法ほうこそ

と何れもなまじが為方より和州ハ日吉の吉乃字の
訓よりその字義ハ毛詩の二月初吉の吉の義も
て吉方といふ事なりとかしもさうき此云もてんま
東鑑ハ順徳帝延暦三の七月廿五日清水寺の僧徒
清閑寺領少木かへ一堂をせんしりせし時かのちん
ぶおのまりちりまよらして山門の衆徒をこがえて
さうらんししきよまへいぞんまおひんばちりてお
よりし檢非違使有範惟信基清をんどもおなきて清水
寺僧徒の軍衆とすさくちりせりてび廳官長

史よおんま〜山門の衆徒とせんぞわ〜しあおる
悪僧が〜のろろぢ〜險阻よりえ王命とこぞ
山徒おとく〜中堂よあひまりて三昧堂のしり
火とらけ〜日吉の七社とびは御簾神鏡を
きりおとちりしきよ〜日吉七社のあ〜やまゆ
に比えの御山と〜比叡山とハ日吉山とらり
なればあま〜魚方とら〜芝山と〜やさ
こ〜吉方と〜六經十三經七史諸
子百家のあ〜ま〜たらゆ〜やどり

らわく又青苗銭とてめしんばやがて回腹中の
くまともは呂惠卿とて男がして免役助役寛剩
諸銭のりふとひくつてせふとて工夫とんぐり
天下の官戸女戸僧道戸單丁未成丁の幼少の民に
おまをせよとて賦役とてつちりしにいとま
なくして役とありぬる百姓といひ婦人僧尼とて田
知りらるる人などい皆ぞにとももの賦役とひく
やあまがそれをもせいの入るるもくせきとこそおとひ
まや惠卿が地とて和卿といふ男がしてまゝの事なりと

りわくひくつて又ぞにも工夫とんぐりして天下の
民の分限帳とて一りて金とら田地とらたるもの
金高地高とせんとして五分づめのうがまんを
天子へとせむひしはのらまのりよといふ
まびくくちりしゆき侍りてうむをせぬぬの百姓
の金とて田地とて代なを代と帳めんものをもと
ちやうけもがまびくつてやの一人乃椽一寸の土地とて
めしつてびつこいぬつらうあそりうのたぐひよとて
皆帳めんよかまのせりて多少よとてびのうらび五分

てぐんきりりて調あつとよきるめりなりとていふも
解とくえと誤あやり馬端臨ばたんりんといふやうに
世の中乃微官いゝんも免あやるがやあとのあひが
さくの調あつえきとんびりて進あはとひひ
へるあひひとていふもいふおとつと
媒まとていふとめれば名なをとり刺さを投なげるの
るやうにさしてこそ孔平仲續世説くへいしゆんじゆくせせつといふにハッま
紙かみあつて竹木ちくぼくとつとていふおと題だいとてえと刺さと
りあつて後世ごせいも紙かみとていふと名紙なかみといふも唐

の耐李徳容貴盛たいりてくきせいせいりて諸人しよじんいとめて礼貌れいぼうと中ちゆうへ
あつてあつてらんがんと改具かいかぐして起おこすの状じやうと
くえ又またとて門状もんじやうといふもせんどもいふといふの口
上かみ覺書かくしよのあひひとていつのちやうやあつてい
とていふもあや門状もんじやうといふを喪家さうかといふにま
口上書くわうじやうしよのちやうやあつて世のつひの消息せきしきといふ
えといふ風俗ふうぶくといふといふのちんといふ沐浴もくよくといふ
るハ論語ろんごのちやうやあつて孔子沐浴くわんしゆもくよくといふ
といふといふといふといふいまの沐浴もくよくといふを死しといふ

三ツサウハチウ
莽操丑古今来 許多脚色とぞおしりくるけ脚色
ハ雜劇まじりげんもろくやのりそらわさすのりよあ
ざりたるさしこも旦とんハ女にょざりしやくやの事
末まハづつざつしやくやのり旦とんハあ人
かろくしやくやのりさしこより考かうくろ
脚色やくしやくのりあるるやれハ文字もんじ同どうしそらわさすの
りよとぞかりよもさばらしめさし下しもハ状じやうの字
いあて脚色状やくしやくじやうとしあまハ此こゝとらわさすのりさ
おのりハ風俗ふうぶくのりまめめづるのりやくやあら本

のりよとぞかりよもさばらしめさし下しもハ状じやうの字
先祖代せんぞの姓氏せいしと一ひとあまらしししりあおまら
ぞんぞんのまのりしやくやのり姓氏せいしと三さんま
らおろしと或あるいはししと或あるいはしとらわさすのり
りて用もちひてぞんハ諸家大系圖しよけだうけいずをしえさる姓せいがかりあ
あつとあやしやくやのり男おとこハ脚色状やくしやくじやうとあると祖そ
徠らいハ明律考めいりつかうをしえさるしやくやのり奉公人請状ほうこうじんじやうじやうの
りよとぞあえてしやくやのり王おうハ國奉公人請状こくほうこうじんじやうじやうを律
あおわさし人ひとハ保任ほうにんしよの由状よしじやうをしえさるわさすの事こと也

はらうーはらうーも 脚色状（しやくしやう）の請状（しんじやう）とをいふことなる
てしきまをば奉公人といふ文字ハ人おの吏典（しけん）といふ
どの職（しやく）となして公（こう）のあまのりさへ一季半季（いちせはんせき）のめし
つゝいを奉公人といふざいをいれしむけしこと國のま
公人（こうじん）といふの雇券人（こいせん）といふことあてまばよかめや
いふんや若上（わかしやう）の請状（しんじやう）と申すあまのりさへ通俗の
沙汰（さた）と申すといふことなる
とも請状といふ文字ハ人を請速（しんじやく）してよびむら
あま用いし文字を人を保任（ほにん）して差發（さはつ）する

ふふがうまはまこえぬやいまらふまは日暮（ひぐり）乃
奉公人請状（しんじやう）のもんざんといふのくんぶらんぶよの
めんを擬（な）してあまのりさへばくをいひしむ
とのことあまのりさへ

保送雇募漢那箇的文契

一 這雇募的漢等項姓字叫做什麼他父祖原籍所在
元來隸什麼國司管轄所累世不枉（ら）為編戶良民
小人們好幾年審實他性子正個老實的漢因此上
在本年什麼干支月日保任他渾身聽使恩府差發

官帶他的去做了相公跟隨。奴要到週歲這千支月日發遣回家。依例接領供給銀兩。什麼多少。多蒙覆艱。縣官條例所在。及思府戒禁。他也那里肯冒背。他萬一有個賤賄事情。犯了在逃。紀律把身躲閃去時。小人們隨即勾攔他去的地方。窩屈革去。一應挾持去的金銀段匹。和他週歲供給銀兩。一面陪賞。繳納思府。不肯虧了相公本錢。

一他父祖累世所奉竺教。因係江戶什麼僧院什麼宗門。檀越不必是南蛮醜類所載來。商種耶蘇流。且有個

破落戶的漢子。用強生事打點去。騙害良民家。罪壯衣証奉阿媽港船商所。匿蛮教時。小人們就便越訴。各州各府衛門。着落硬保。他渾身乾淨事情。不要勾攝思府。一他萬一染了疔羸沉病的病患時。小人們隨即走了思府。交收他的去。及他衣帶古董的東西。壹是等候了思府。檢問交割。再又小人們東去西走。懇求另人抵換他的身上。不要虧了相公廝役事。幹他若有背犯戒禁時。一任思府照這狀子發落。欽此。

たんとおかしな世の上の人とおのづからあつてき

人ハ何ト云ハルモサリ勢リカヤシイシバカク
唐話ヨシク

我有一箇話柄要_ス你聽_キ得好_テ好笑_ク有一箇人把_テ千里鏡_ヲ
帶_ニ在_レ眼睛上_ニ看_テ東_ヲ看_テ西_ヲ一味_ニ看_テ玩_ス景致_ヲ那時_ニ節_ニ有_テ一
箇人_ハ立_ニ在_レ對面_ニ濟_セ楚_ソ箇兒_上安_ニ排_シ了_リ高會_ヲ喫_ニ了_リ幾_ク杯_ヲ
酒_ヲ開_テ箇_ノ口兒_ヲ只_ニ管_ニ自_ラ拆_キ自_ラ舞_ヲ那時_ニ帶_ニ千里鏡_ヲ的人_ハ看_テ
他_ノ擲_キ唇_ヲ簸_キ嘴_ヲ的_ノ摸_キ樣_ヲ像_ニ箇_ノ說_キ々_ノ風_ニ趣_ニ的_ノ話_ヲ頭_ニ意_ニ思_ニ要_ス
聽_キ見_キ他的_ノ說_キ話_ヲ只_ニ顧_ニ看_テ看_テ得_テ與_テ頭_々與_テ得_テ昏_ニ了_リ昏_ニ頭_ヲ
搭_ニ腦_上不_レ知_ラ不_レ覺_ハ把_テ千里鏡_ヲ取_リ到_リ耳_邊裡_ニ探_キ聽_キ一_ノ探

聽_キ你_ノ道_フ好_ク笑_ハ不_レ好_ク笑_ハ麼_。

とつらばの再一も日本のゆきとんがまら
つらばの再一も日本のゆきとんがまら
のハヤの再一も日本のゆきとんがまら
ある詩書六経の再一も日本のゆきとんがまら
おこれいせぬ世の中うやむいの人んさき聲のんご
らつらばの再一も日本のゆきとんがまら
かぜがわん

注

淮南子本經訓ヨシク一蒼頡文字つらばて天粟と云

こを書のしめしめしとせんと又画とてあつたり
いとむ

三カ

韓非子は或る人齊王のしめに怒るは王問ひ
し画のしつこいものかめしむとせしむ
しめられし人といふは狗馬といふも
まゝ王又問ひしつこいものか又めしむ
しめられし人又いふは鬼魅といふ
しめられし人又いふは狗馬といふ
皆その真とせしむるや

世のつひのしめしむるはつこいものか
しめられし人又いふは鬼魅といふ
しめられし人又いふは狗馬といふ
皆その真とせしむるや

程朱学の平和なる狗馬といふ
んで君子はしめしむるは馬

風俗碑茶夜談前編卷之十五終



